

令和7年度第1回「知事と一緒に生き活きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：蒜山ジャージー酪農で岡山を元気に！
- 2 日 時：令和7年4月18日（金） 13:50～15:10
- 3 場 所：ジャージーランド（真庭市蒜山中福田956-222）
- 4 参加者：蒜山地域の活性化を図るイキイキ楽酪協議会のメンバーやジャージー酪農家など6名

5 知事挨拶

ジャージー牛はホルスタインと比べて希少だが、牛乳は濃厚でおいしい。これを生かすことが大事で、観光との連携で、生産だけでなく販売戦略をみなさんと一緒に考えていきたい。

6 発言内容等

【自己紹介及びこれからの蒜山のPRについて】

- ・ジャージー牛を40～45頭飼育し、そのうち約30頭を搾乳している。祖父、父の代から酪農を営み、自身は8年前に経営を引き継ぎ、ジャージー牛一本に絞った。この地には仲間がおり、そこが一番の強みでもあると考えている。
- ・蒜山酪農は全国的にも珍しいジャージー専業メーカーで、牛乳・乳製品の製造販売、育成牧場や観光施設（ジャージーランド）の運営を行っており、全国に広くジャージー製品を売っている。昨年度、プロジェクト推進室を新設し、ジャージーの魅力発信や組織の横断的な問題解決に取り組んでいる。
- ・蒜山酪農で製菓、お菓子作りを担当している。R2年に菓子工房「パティスリーフィレール」を立ち上げ、ジャージー乳を全面に出した、手作り商品を製造・販売している。
- ・小学校校長。イキイキ楽酪協議会の「学校へイッテミルク」で、1年生にジャージー牛（子牛）との触れ合い、疑似搾乳体験、心音を聞くなど、貴重な授業をしていただいた。
- ・蒜山生まれ。大阪で調理師免許を取得後、Uターンして夫婦で飲食店を経営している。地元のジビエや山菜など、地元の食材を使った料理を提供している。
- ・観光文化発信拠点「グリーンナブル蒜山」で観光案内やレンタサイクル業務を担当している。蒜山観光とジャージーはイコールで、乳製品やジャージーが放牧地でのんびり過ごす姿は蒜山を代表する景観であり、グルメ、特産品と思っている。

【今後の取り組み・課題、必要な支援など】

- ・ジャージー牛は小柄で扱いやすい反面、ホルスタイン種と比べて乳量が少なく、子牛

の販売価格も低い。新規就農者の減少や酪農家の高齢化と後継者不足で、生産量も落ちている。さらに、物価高騰等が酪農経営の継続を難しくしている。毎日の搾乳作業で休暇が取りにくいこともある。蒜山地域は傾斜地が多く、飼料となる牧草地の確保と拡大が難しいので、土地の整備をしてほしい。これらの課題はあるが、県のプレミアム価格制度を活用することでジャージー酪農を継続していくことができている。将来的には、自給飼料の生産量を増やし、余剰分を県南の酪農家に供給することで、蒜山の豊かな自然と資源を有効活用し、地域全体の酪農振興に貢献できると考えている。

- ・A2牛乳の効果効能に関するエビデンスが不足しているため、積極的な宣伝が難しい。
また、ジャージー牛とジャージー牛乳自体の知名度が低く、消費者にその価値を十分に理解してもらえていないという課題がある。さらに、既存の販路だけでは生乳を使いきれず、バターの生産能力も限られているため、販売拡大に限界がある。そのため、メディアに取り上げられる話題性のあるA2牛乳を広告塔に、他のジャージー製品の販売促進や蒜山地域への観光客誘致につなげていきたいと考えている。今回、A2牛乳のパッケージに牛の顔を入れたのも、ジャージーを知ってもらう1つのきっかけとして考えたからだ。
- ・ジャージー乳の特徴は「濃さ」と「後味の良さ」だと思っている。この特徴が強く出る生クリームやバターを使用した商品を開発することが、蒜山地域を盛り上げる一助になると思う。
- ・在勤校は蒜山地域から離れているため、児童にとって蒜山は観光や社会科見学の場所というイメージだった。「学校ヘイッテミルク」の体験学習を通して、牛が人より温かい事や擬似搾乳体験で搾乳の難しさを学ぶことができた。蒜山地域ならではの豊かな自然の中で、様々な体験を通して地域の魅力を伝え、「自分のホームグラウンドはここだよ」と子供たちに伝えたいと思っている。
- ・飲食店を経営するなかで、アレルギー対応の必要性を感じている。牛乳アレルギーが出にくい牛乳と古代小麦を使った、「夢のクリームパン」をいつか作ってみたい。
- ・英国料理の第一人者を蒜山に招き、県外から多くの生徒やファンが訪れてくれた。ジャージー乳と英国料理の相性の良さを発信することができたと思う。このような影響力のある方に発信することで、大きな効果を生むことが分かった。

7 知事まとめ

蒜山地域の観光は、「飲食」や「見る」だけでなく「体験する」「知る」「学ぶ」ポテンシャルがある。観光客に喜んでいただき、蒜山がより良い元気になるやり方をこれからも考えていきたい。